

小特集

食品包装

本号のテーマは「食品包装」です。3編の解説記事を掲載しています。

- ・ 青果物向け包装に関する最近の研究事例 北澤 裕明
- ・ 液体食品容器包装の技術展開と課題 今田 克己
- ・ 食品包装へのデジタル印刷の展開 住本 充弘

最初の原稿は2019年度秋季講演会での講演者によるものです。また、第24回食品新技術研究会「食品の充填容器と包装材料について」（2019年11月15日）の講演者2名による原稿が残り2編です。

2019年20巻3号の“編集委員会から”で「日本食品工学会誌の範囲（ストライクゾーン）」という記事を書きました。そのなかで『日本食品工学会誌は日本食品工学会の全会員に食品工学および関連領域に関わる情報を伝達・普及する目的で発行する』という抽象的な目的しかないことと、海外の食品工学（Food Engineering）雑誌では、扱う内容のキーワードを多数提示していることを紹介しました。後者には packaging, storage and distribution というキーワードがはっていました。

私自身の狭い食品工学の定義では包装は、“保存性を向上すること”が第一義と思っていましたが、今回の解説記事を読むともっと広い範囲で研究開発が行われていることがわかります。食品産業では、化学産業とは異なり消費者に直接届く（すなわち包装された）製品を製造することも多く、最終包装形態が製品に大きな影響を持つことも多いでしょう。また、包装は環境負荷に対する影響も大きく、SDGs達成にも重要な検討項目です。

小特集担当編集委員 市川創作（筑波大学）
編集委員会委員長 山本修一（山口大学）